人道的義憤から

菊榮女史談

現代の社會的生活をなしつゝある人にして多少其生活内容を研究し其の社會的生存の意義に就て考察する時は其の自己の生活が人類の社會的生存の目的と餘りに方角違ひの中に彷徨して居る事を發見するであらう。人類永遠の目的は高級なる文化の無限、追及であると考へられて居る、而して文化の事業者は彼等の社會的に必要なる物資の生産者でなくして生産者の生産に依據する不生産者である社會的生活の必要品を生産して日夜營々たる勤勉と努力の爲めに身体を勞役する生産者は文明を生む可き原動力ではあるが、其の原動力者は人類生活の目的たる文化の享樂に參加し得ぬと云ふ事は如何に考へても不合理であらねばならぬ實際今日の機械工業に依る生産事業の急激なる發達と共に人類の文化と云ふものは長足の進歩を遂げた、併し此の文明の進歩と文化の發達は果して多數の生産者の生活を向上せしめ充實せしむるに何の貢獻を爲したのであらうか歐洲大戰は我國をして世界三大強國の一とせしめ、廿億圓の正貨を蓄積せしめ債權國から金持の國と爲したが夫は何ういふ結果を多數の生産者の生活に與へたか、物價の騰貴といふ形で更に其生存を脅かされ賃銀の増加は物價と比例せず生活苦を附加したに過ぎなかつた、更に戰爭終了後世界的不景氣の襲來に依りより慘な生活に生産者の地位を陥らしめつゝあるではないか、換言すれば生産者の生活は文明の進歩發達に依り何等幸福の増進生活の向上を實現するを得ず却て之を退化せしめ劣惡ならしめて居るのである　之れ近代人の思想が懷疑的となりつゝある所以である、吾等の立場は今日の人類の社會的生活様式即ち資本主義制度の本質的誤謬を指摘し其の存在を破し以て多數民衆即ち有益なる生産事業に携はれる勞働者本位の社會制度を建設し人類の幸福を増進せしめんとするものである。此等の者は社會主義者を目して社會人の生活を呪へるものと見做して甚だしき誤解を加へつゝあるが如きも、吾等の信念は今日の資本制度に依る多數生産者の呪はれたる生存を救濟し人類の圓滿なる社會的生存を完ふせしめんとするもので吾等の行動は人道的義憤の發露自己の生活を熱愛するに基因するのである　彼の維新當時憂國の士が其生活を抛つて國事に奔走したる態度は吾々が其熱誠に對しては大に讃美する事を禁じ得ざるものである、王政の復古ではない、徳川三百年の權力、頼朝以來七百年の制度を覆へすだに容易なる事業ではなかつた、況んや有史以來の人類の生活の誤謬を發見して之を廢止し正しき社會の實現の困難なるは到底其比では有り得ない、其誤れる永き生活は人類の性質を一變した而も今や現代資本主義制度の誤謬と缺陷とは何人も承認せざるを得ない程顯著になつて來た、之れ變態して其崩壊を來す可きを物語るもであらう、併し歴史的の制度は偉大なる潜勢力を存するもので吾等の所期する社會の實現は尚ほ遙かに遠い將來の事と思はれる、或は最近の傾向を以てすれば案外に近いかも知れぬ、何れにせよ今日の組織に因る吾人の生活苦惱を去り新社會の實現に依り各人が其の生活を豐富にする日の遠かならん事を望みて已まざるものである、凡そ社會改革には二の樣式がある、一は鐵の酸化するが如く錆となつて鐵の本質を極めて徐々に變化せしむる場合と酸素中にて燃燒すが如き場合の如く高い熱と光りとを發して之れを爲す時と二つあるので其の革命は其後者に屬するもので其の犠牲も可なり大きなものであるが露西亜の過渡時代の生活者に與ふる困窮は其の質に於ても量に於ても非常なもので露西亜國民にとりて非常に痛いものであつた。（東京支局）

亞米利加の新人
お座敷の過激主義者

鶴見祐輔

亞米利加に過激主義を恐れて居る國は、餘りたんと有るまい。然し其の亞米利加でも所謂「お座敷の過激主義者」即ち「パーラー・ボルシエヴイスト」は餘り恐がつて居ない樣である。眞實の過激主義者と「お座敷の」と言ふ肩書の付いた過激主義者との別は、前者が、現在の社會制度の根本的缺陷を改正する爲めに暴力を用ふるを辭せざるに反し、後者は、社會組織の病弊を認めて其の改革の必要を是認し乍らも、暴力の使用を絶對的に非とするにある。斯う言つてしまへば、前者は實行的革命主義者で、後者は單純なる理想家で、日本語で言ふ「新人」位のことになるやうであるが、事の起りを考へて見れば、今少し面白いやうである。夫は、先年露西亞の社會革命が起つた時に、あの守旧的な米國にも矢張り同情者があつたので、色々研究もし贊成もした。殊に有產有閑階級の新思想家や、いづれは其の一部分である所の學生の間などに、露西亞流の思想が流行した。所が毛皮の外套に身を絡んで、自動車でオペラを見に行く貴婦人達の新しがりも、可笑しいと言ふので眞實の過激主義者達が之を「應接間の過激主義者」と言つて嘲笑つた。丁度、ルーズヴェルトが、新思想や人道を口にして、一向實行しない手合を「絹の靴下を穿いた人道論者」と罵倒したと同一筆法である。千九百十八、九年の交には、この「お座敷の過激主義者」と言ふ文字が、既に米國で用ゐられた。タフト前大統領などは、演説の中によく、「かの新思想家ぶるお座敷の過激主義者が、ヒツヒツヒツ」と、有名なタフト・スマイルを入れて嘲笑したものであつた。實際親讓りの財產で何不足無く暮して居る連中が、物好き半分に新思想を振り廻すのは、子供が火を振り廻して遊ぶ樣な感じを與へたに違ひ無い。然し、この「お座敷の過激主義者」も、穴勝ち邪魔にばかりしたものでも無い樣だ。最近、英國第一の文豪たるエーチ・ジー・ウエルスが米國に來た時に、彼の小説の愛讀者たる人々が大勢集まつて大歡迎會をした、其の席には鐵鋼王ゲーリー氏の如き守舊論者の巨頭も居れば、マクス・イーストマンの如き共產主義者も居た。以て彼に對する興味が如何に米國に於て熾であるかを知ることが出來る。其の理由を一記者が説明して、夫はウエルスがお座敷の過激主義者であるからであると謂つた。即ちウエルスは新思想家たる點に於て新人に悅ばれ、暴力否認論者且つ非實行家たる點に於て舊人に容れられるのであると言ふ。此定義に依れば「お座敷の過激主義者」と言ふ文字は必しも冷笑の代名詞でも無くなるやうである。北畠親房は時の權力者たる足利氏の非を天下に闡明したる點に於て、頼山陽は王政維新の根本精神を六十餘州の青年に鼓吹したる點に於て、共に一種の「お座敷の過激主義者」であるとしなければならぬ。過激な議論もお座敷で紅茶を啜り乍らやつて居る分には宜しいとも言へるし、紅茶を啜つて話して居るうちに天下を風靡するとも言へる。然し世の中が幾分宛かは新しく變つて行く方が、若し善いものであるとするならば、少し位は絹の靴下を穿いた人道論者も居てもよからうし、お座敷の過激主義者も邪魔にはなるまい。況んや屠蘇の一杯機嫌で、松の内に氣焔を上げる位は罪もあるまい。

上海假政府
勞農政府と結ぶ

財政の窮乏、部内の暗鬪反目、外部の壓迫、常に斯うした暗雲に包まれて居る上海の鮮人假政府は舊臘中極度の窮迫に逢つてアハヤ潰滅に瀕したので大統領李承晩は必死となつて應急策に腐心し漸く部内の改造をなし次で米國に對して借款を懇請したが體よく拒絶され絶體絶命の悲境に陷つた折柄露國勞農政府の一員が上海に來たことを聞いて之に事情を打ち明け救濟を求めその手段に依て勞農政府と協約を締結し援助を受けることゝなり最近上海で兩者會見調印をなし哈爾賓に於て現金十一萬圓と銃器二千挺の交付を受けたさうである而して兩者の締結した協約は左記三箇條より成るものである

一、露國韓國一致して日本に對抗す

二、露國は上海假政府に武器及び軍資金を供給す、韓國は正式に政府成立の上は二十箇年の年賦にて返濟す

三、上海假政府は露國人を招聘して軍事顧問及府政務顧問とす（東京